

安心・安全な道路造りに生体情報活用

ドライブレコーダーと心拍計でデータ収集

ドライブレコーダーや心拍計を使って生活弱者や自動車運転中の人の生体情報を収集・分析するNPO法人日本ライフリズム分析評価機構が4月に発足、活動を開始した。路面の状況や健康状態でドライバーはどんなストレスを受けるのかを科学的に分析し、これからの道路造りに役立つ。活動の中心を担う「ドライブレック委員会」には建設コンサルタントの八千代エンジニヤリングも参加、安全で安心な社会インフラの実現に取り組んでいる。

日本ライフリズム分析評価機構は、任意団体として活動していた「運転行動データ分析・活用委員会」を母体に生体情報に基づいたストレス分析・診断を行う目的で設立したNPO法人。医療、交通工学、福祉、まちづくりといった幅広い分野の専門家がメンバーとして参加している。

活動の中心となるドライブレック委員会は事故映像などを記録するドライブレコーダーの普及に努めると同時に、レコーダーに記録された事故映像から事故発生の状況を確認。その原因を探る。また、衛星利用測位システム(GPS)を使って道路の走行ルートと状態を把握する。こうした活動に加え、今後はランニングなどで用いる心拍計を運転者に装着し、走行時の生体情報を収集・分析する。

NPO法人日本ライフリズム分析評価機構

「事故が発生する原因はひとつではない。見通しが悪かったとか、うっかりしていたとか、いくつかの理由が重なっているケースが多い」と同機構の石井良昌専務理事(八千代エンジニヤリング顧問)は指摘する。レコーダーを使って周囲や路面の状況を確認すると同時に、心拍計で運転者の心理状態、健康状態も分析。事故の起きやすい道路とはどんな状態なのか、そうした道路を走行している時に運転者はどんな状態にあるのかを把握し、より良い道路のあり方について考えようとしている。

ドライブレコーダーはタクシーやトラックなどに装着されており、タクシー会社などの協力を得て約2000件の事故



事故車からの映像

データを収集。このデータをベースに、タクシー会社などの教育向けテキストとして活用することなども今後検討する。同機構では現在、自転車にドライブレコーダーを装着することも検討している。電動アシスト付自転車の普及やスポーツ自転車ブームにより自転車による事故が多発していることがその理由だ。自転車は、車道を走ることが多いものの、歩道を走るケースが圧倒的に多い。歩道を走る自転車が、高齢者と衝突してけがを負わせてしまうことが多く、自転車の安全運転教育が急務だと考えた。

現状では自転車に取り付けるにはドライブレコーダーが大きくなり、一般に普及するには時間がかかると思われるが、車道の路肩の状況を確認し、自転車の安全走行を確保するためには、試験的にデータ収集は有効な手段だろう。石井専務理事は「自転車でも収集したデータを用いて小学生向けの安全教育の教材を作成できたらと思う」と語る。

自動車、自転車、歩行者といった道路を利用する多くの人が、それぞれの立場で、安全で使いやすい道路を考える。同機構は、そうした活動のきっかけを多くの人に与える。そしてその活動は、人びとの安全を支える基礎的なデータとなる。石井専務理事は「機構の集めたデータは交通安全のためのバックデータ。事故の削減と交通バリアフリーの実現に役立てたい」と今後の活動について語っている。

参加作品募集
鹿島出版会
6月21～25日

鹿島出版会は、建築・環境・インテリアのドロッキングと模型の入選展「SDLEJUE2010」の参加作品を6月21～25日に受け付ける。

募集対象は「実施を前提とした設計でないしは施工中の建築屋外空間、インテリア」。応募の時点ですべてに完成しているものや雑誌などで発表済みのもの、コンペの応募作品などは対象外となる。

審査は伊東豊雄、新谷真人、栗生明、小泉雅生の4氏が務め、アドバイザーとして榎文彦氏と鹿島昭一(鹿島取締役相談役)が加わる。9～10月に東京と大阪で入選展を開く。

参加希望者は作品の設計意図を説明する図面や写真、プロジェクト概要、設計趣旨文(400字以内)などをA3判用紙4枚以内(まどめたプレゼンテーション資料を「鹿

010事務局」(〒104-0028 東京都中央区八重洲2-5-14)に郵送で提出する。問い合わせは電子メール

09年度生コン出荷量 39年ぶり1億m割れ 3年連続前年下回る

全国生コンクリート工業組合・協同組合連合会は、09年度の生コン総出荷量が前年度比14・8%減の8603万立方メートルと発表した。前年割れは3年連続で、39年ぶりに1億立方メートルを割り込む。同連合会は、10年度の生コン総出荷量について、民主党政権の方針で公共投資が大幅に削減され、民需の回復も遅れているため、7714万立方メートルと予想しており、4年連続の前年割れを見込んでいる。

09年度技術成果30件報告

JR東日本東京工事事務所は4月27日、東京・新宿の事務所内で09年度の技術成果報告会を開いた。昨年度1年間の技術的な研究・検討の成果を